

中等教員としての資質・能力育成の体系化・プログラム化による教科教育コアカリキュラム —教科教育科目と教科内容科目の有機的連携—

調査の概要

◆課題認識

- ・教員としての資質・能力の形成は、現状では個々の授業の単位の集積によって認定され、学生が実際に習得・形成した資質・能力の内実とその形成過程が明確にならない
- ・中等教員養成カリキュラムの各科目の役割と順次性を明確にしてプログラム化する必要がある

◆研調査究の目的

- ・教員養成カリキュラムにおける、各科目の内容、配当セメスターからみえる他科目との関係性、教科内容科目における「一般的包括的内容」の具体などの分析を行う
- ・それらを通して、中等教員養成における教科教育モデルコアカリキュラム開発の方向性に対する示唆を導出する

◆調査研究の方法

- ・中等教員免許(国語、社会、地理歴史、公民、数学、理科)の取得可能な全国の国立大学における教員養成カリキュラムの調査(便覧、シラバスの収集・分析、アンケート)
- ・カリキュラムの類型化ならびに類型を代表する大学の教科教育カリキュラムの詳細な調査・分析(訪問調査を含む)
- ・調査から得られる教科教育コアカリキュラムの方向性の検討

◆調査対象大学

- ・調査対象大学は、前記教科の中等教員免許の取得が主目的となっている、あるいは体系的なカリキュラムを持っていると判断できる58の国立大学
- ・そのうちの52大学(教科によって異なる)のご協力を得た

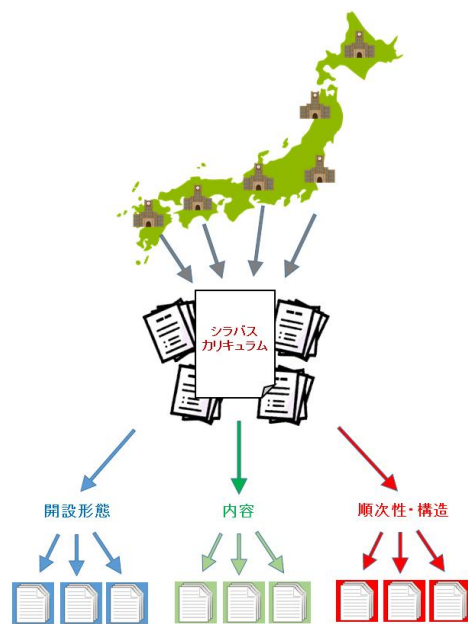
取組のポイント・成果

◆取組のポイント

- ①カリキュラム、シラバスの実態分析からの考察
- ②学生の4年間の学びの視点を重視した考察
- ③教科内容と教科教育の連携強化を意識した考察

◆成果

- ・教科内容に対する考え方の多様性が浮き彫りになった
- ・「一般的包括的内容」の解釈が大学により、教科により、様々であることが明確になった
- ・授業の順次制やカリキュラムの構造に対する意識の強弱が明らかになった



今後の課題

◆開放制教員養成課程の位置づけ

- ・教科教育モデルコアカリの適用範囲 →育成される教員の資質・能力にバラツキ

◆教科の違いによる考え方の相違

- ・背景となる専門科学の影響 →教科を超えて一貫したカリキュラム論の難しさ